

駒ヶ根市長 伊藤祐三 様

駒ヶ根市議会議長 小原茂幸

市民と議会の意見交換会で出されたご意見について

駒ヶ根市議会では、「開かれた議会」として市民との情報共有及び市民参加を推進し、多様な意見を集約する中で、政策提言・政策立案につなげることを目的に意見交換会を実施しています。

令和6年度は、駒ヶ根市議会全体での意見交換会1回、総務産業委員会1回、教育民生建設委員会2回の計4回開催し、テーマに関係する団体の皆さまとそれぞれ意見交換を行いました。

多くのご意見をいただきましたが、その中で市へ回答を求める必要があると判断したご意見は下記のとおりです。また、併せて、お伝えしておくことが良いと判断したご意見も同様に記載いたしますので、今後の市政運営の参考にしていただければ幸いです。こちらは、特段の回答は必要といたしませんのでご承知おきください。

記

1. 早太郎温泉事業協同組合との意見交換会（総務産業委員会）

（1）開催概要

- ▶開催日 令和6年5月14日（火）
- ▶会 場 ホテルやまぶき
- ▶テーマ 駒ヶ根市観光（早太郎温泉郷）の現状と課題について

（2）市へ伝達する意見等

- ①早太郎温泉では新たに温泉工事が開始されますが、将来的な運営を見据え、温泉が出た際の湯量に応じた各施設のお風呂改築や改修工事について、補助金や助成制度の活用を含めた準備を進めていただきたいと考えています。これにより、地域や利用者のニーズに応えられる施設づくりが可能となり、温泉の活用価値を最大限に引き出すことができると思います。
- ②地域の自然や歴史、文化と調和した温泉の魅力を発信し、より多くの方々に早太郎温泉の素晴らしさを体験していただけるよう、観光協会において、引き続き積極的なPRをお願いします。

2. 不登校の親の会・不登校支援を行う団体との意見交換会（教育民生建設委員会）

（1）開催概要

- ▶開催日 令和6年8月22日（木）

- ▶会場 赤穂公民館
- ▶テーマ 不登校の現状と課題
- ▶相手方 てんとうむしの会、NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ

(2) 市に回答を求める意見等

- ①当市の不登校に関する相談窓口は教育委員会子ども課で、学校や保護者と連携し、不登校担当指導主事や教育相談員が子どもに合った支援を行っています。しかし、保護者からは情報や相談先が分からず困っているとの声も聞かれます。今後、市の相談窓口だけでなく、民間支援団体やフリースクールの情報提供・周知をさらに進める予定はありますか。また、不登校児童・生徒の居場所についても重要な課題です。現在利用されている場所がある一方で、利用しづらいとの声もあります。居場所づくりをより深く検討し、実施していく考えはありますか。
- ②学校に通えない子どもたちへの支援は重要な課題であり、「切れ目のない支援」を実現するには、教育委員会と福祉部局の連携強化が欠かせないと考えます。不登校支援において、子ども課と福祉課の情報共有や意思疎通は十分に行われているのでしょうか。また、市が現在取り組んでいる教育委員会と福祉課の連携内容や、今後の対応・支援についてのお考えをお聞かせください。

(3) 市へ伝達する意見等

<相談先>

- ①保育園で行き渋りが始まり、小学校で不登校となり、支援学級に通う中で「ASD」と診断されました。しかし、市から具体的な対応方法の案内がなく、自らインターネットで調べるしかありませんでした。市として、こうした家庭への適切な情報提供と支援を強化していただきたいです。
- ②こころの医療センター駒ヶ根や市子ども課に相談する中で、「NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ」を知ることができました。現在、先生に相談し少し安心できています。

<居場所>

- ①「Yerette (イエレット)」を月2回利用しており、誰でも断っていた息子が遊べるようになりました。子どもは、「そこに居ても良いんだよ」と言ってくれる安心できる人がいないとその場所に行けません。
- ②こころの医療センター駒ヶ根に1年半入院した後、中学へ通いました。現在、中学3年生の子は、フリースクール「オールブルー」に通い、高校2年生の子は「Yerette」を利用しています。

<支援、体制>

- ①「学校へ行かなくても良い」という意識の変化が家庭を明るくし、子どもを自然体にさせる一方、不登校を社会の問題と理解し暖かく支える地域の大人の存在や、不登校になる前の支援、居場所づくりの重要性が求められます。
- ②つくし園利用に関し、我が子が適応できない体制や考えがあり、通園できませんでした。
- ③「生きているだけで良い」という意識の普及には、自死予防の観点からゲートキーパーの

養成が必要です。

- ④シングルマザーとして生活のために働きながら、子どもの施設や居場所利用にかかる費用の負担が大変でした。

3. 伊南不動産組合との意見交換会（駒ヶ根市議会全体）

（1）開催概要

- ▶開催日 令和7年1月21日（火）
- ▶会場 アイパル アイリス
- ▶テーマ 移住施策の展開、空き家対策へのアプローチについて

（2）市へ伝達する意見等

マイホーム取得支援事業の移住・子育てマイホーム補助金の改正（一部要件の緩和）は前向きで良いと思いますが、年齢制限 45 歳未満というのはどういう考えでしょうか。60 歳前後で移住される方もおり、こだわる必要はないと感じます。

4. 駒ヶ根市公立学校教職員組合との意見交換会（教育民生建設委員会）

（1）開催概要

- ▶開催日 令和7年2月17日（月）
- ▶会場 駒ヶ根市役所
- ▶テーマ 学校現場の現状と課題等について

（2）市へ伝達する意見等

- ①発達特性、家庭の要因、学習の苦しさなど、不登校の要因が複雑に絡んでいると感じます。幼保連携、情報共有をしても不登校予防はなかなか見えません。見えた時にはあつという間に深刻な状況になってしまいます。
- ②不登校を問題行動と捉えないという言葉が非常に響いています。学校に来れていない子、学校に来ていないので来させないといけないと捉えていたことを反省しています。不登校を問題行動と捉えないというみんなで支え合う社会、自分も含め、地域全体でそういう気持ちでいることが大切だと思います。
- ③以前、勤務していた学校では e ライブラリを活用し、インターネットを使って連絡帳や宿題管理をしていました。教員と児童が直でつながれるため欠席児童への対応が便利で、例えば社会見学が欠席の場合でも、欠席児童がタブレットを開いておけば、LIVE で社会見学も可能でした。教室に入れなかった子の学力の保証、不登校の子も別室で勉強ができることは効果があるところだと感じます。